

# 第1章 協働とは

## ❖ 1. 協働とは

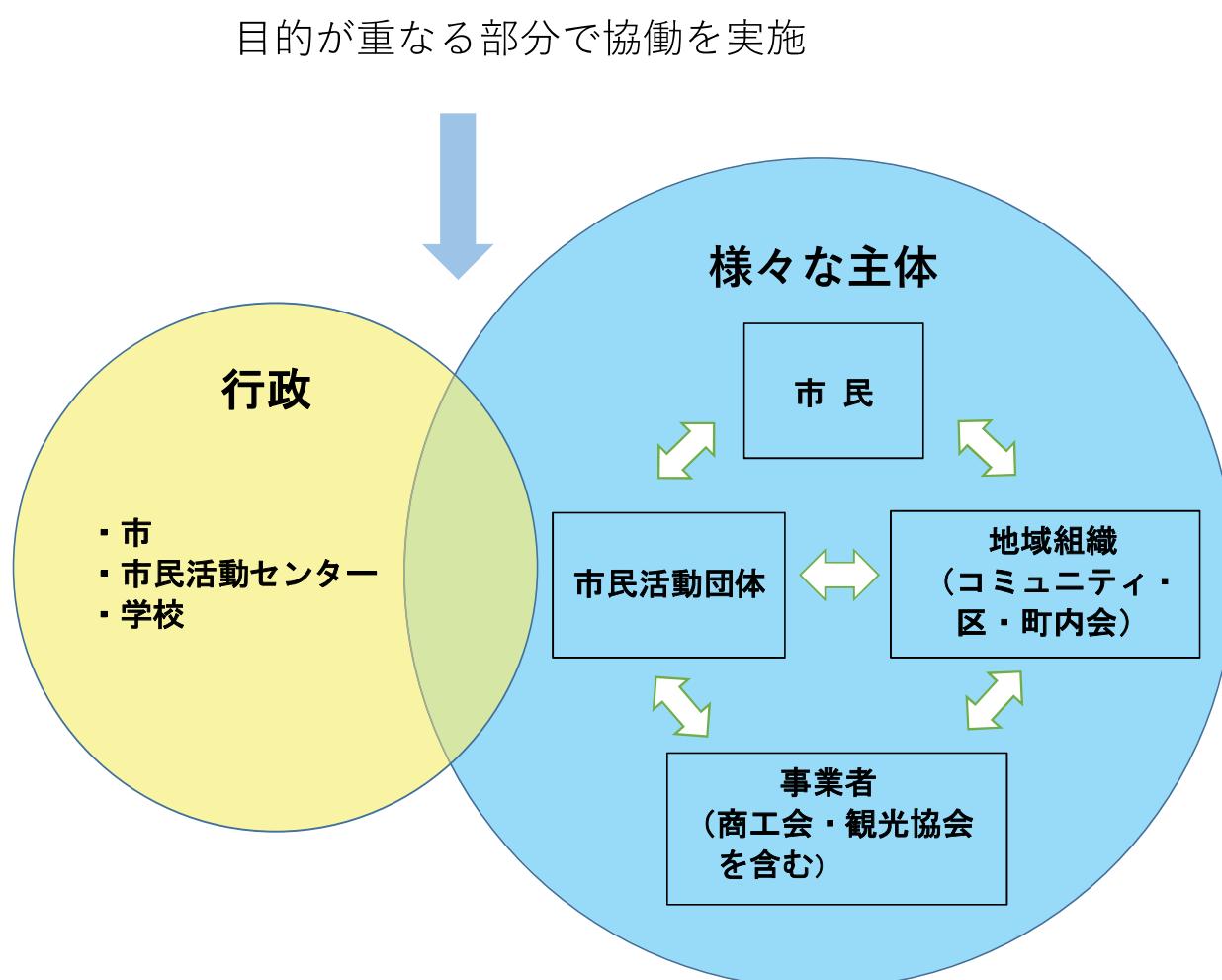
協働とは、市民、地域組織、市民活動団体、事業者、行政等の様々な主体が、同じ目的のために役割を分担し、かつ補完し、ともに力を合わせて活動することです。

図1の行政が進める事業と様々な主体が行っている活動を表す円が重なり合っている部分で、一緒に事業を進めることを「協働」と言います。

協働には様々な組み合わせがありますが、本ルールブックでは、行政と市民・地域組織・市民活動団体・事業者との協働を指します。

図1の様々な主体の中で、各主体の活動範囲が同じで一緒に事業を進めることについても「協働」と言います。

### ◆協働のイメージ（図1）



## ❖ 2. 協働の目的

近年の少子高齢化、核家族化などに伴い、価値観や生活スタイルが多種多様化する中、地域における課題も大きく変化しています。それらの課題などを、行政だけが主体となって解決することが困難になってきています。



これからのまちづくりには、行政のみではなく、市民、地域組織、市民活動団体、事業者の力が必要です。

様々な主体が、それぞれの特性を活かしながら、お互いに協力し合ってまちづくりを進めていくことで、一生涯住み続けたいと思えるまちの実現を目指します。

市内には、地域コミュニティや子育て支援、文化芸術やスポーツ団体等、様々な分野で活動する団体が存在します。そういった団体と協働することで、魅力あるまちづくりを推進していきます。

## ❖ 3. 協働により期待される効果

協働には、行政のみでは対応することが難しい課題を解決することだけでなく、それぞれの主体において、次のような効果が期待できます。

### ◆市民活動団体等にとっての効果◆

- ・知名度や印象が向上する。
- ・活動領域が拡大する。
- ・組織力の強化や能力が向上する。
- ・活動資金が獲得できる。



### ◆行政にとっての効果◆

- ・多様な行政サービスを提供できる。
- ・魅力あるまちづくりが実施できる。
- ・市民参加の機会が拡大する。
- ・職員の意識改革や資質が向上する。

### 協働の効果

### ◆まちづくりを担う市民にとっての効果◆

- ・公共サービスの担い手となることで、自助・共助の力が向上する。
- ・まちづくり活動に取り組むことで、地域へ参加するきっかけとなる。
- ・生きがいなど心の豊かさが向上する。
- ・新しい仲間が増え、社会とのつながりが広がる。
- ・教育において多種多様な機会により青少年の健全育成につながる。

### ◆まちとしての効果◆

- ・市民の意見や思いが反映される。
- ・市民の一体感が生まれ、活気あるまちになる。
- ・積極的にまちづくりに参加できる。
- ・地域社会に暮らす生活の質の向上につながる。



## ❖ 4. 協働の範囲

協働の範囲とは、市民、地域組織、市民活動団体、事業者等が取り組む公益性のある活動と行政が行う事業が一致している範囲のことです。

市民と行政の関わり方は、図2のように「①市民主体」から「⑤行政主体」までの範囲を考えられますが、このうち、市民と行政の活動が重なり合う「②市民主導」から「④行政主導」までが協働の範囲の基本となります。

図2では、無着色の部分が多ければ市民主体の活動となり、着色の部分が多くなればなるほど行政主体の活動となります。

### ◆市民と行政の関わり方のイメージ（図2）

